

前号で「この時期は一年中で最も過ごしやすい時です。秋という季節を堪能するときでもあります」と記しましたが、いかがでしょうか。この好機るとき、本校では10月6日、広島グリーンアリーナにて3年ぶりの体育祭が行われました。初めての会場使用となりましたが、大きな混乱もなく終えることができました。

また、高校2年生は10月11日～15日まで、中学3年生は10月12日～15日まで、これまた3年ぶりの研修旅行が行われました。高校は、沖縄コースと鹿児島・屋久島コースの2コース、中学校は、徳島県上勝町へ。コロナ感染対策に注意を払いながらの研修旅行となりましたが、それぞれ充実したものとなりました。

(写真は高2沖縄コース、読谷村での平和学習の様子)



## 誇れし、我が協創生

### 生徒による手話通訳

9月26日(月)と10月3日(月)の全校朝礼で、手話同好会の高校生3名が校長講話の手話通訳をしてくれました。現在、全校朝礼はzoomを使ってオンラインで行っていますので、生徒は各教室で視聴しての朝礼です。対面ではないにしても、3名の生徒は随分と勇気を持ってチャレンジしたのだと思います。

「やっておけばよかった」と後悔しないようにしましょう、と普段から生徒に言っています。「トライ&エラー、失敗を恐れずとにかく挑戦してみよう、むしろ失敗経験が大切だよ」と。手話通訳もそのことの一つですが、「どう、先生の話を手話でやってみない」の一言から始まったものです。その誘いに二つ返事で了解したことも実に素晴らしいことです。

同好会の活動は、手話のテキストを見ながらの“独学”が中心とのことでしたが、並大抵の努力では習得できるものではないと思います。手話は、手指動作と非手指動作を同時に使う視覚言語です。私たちが通常使う音声言語と並ぶ言語です。手話を必要とする方がいます。その方々のために役立ちたいという想いをカタチにしているのが手話同好会のみなさんです。

### 聞き逃すまい、この戦禍と実相を

高校2年生の研修旅行、沖縄コースに帯同してきました。好天に恵まれ、沖縄の自然の美しさを味わい、そして、平和の尊さを学ぶ4泊5日の行程でした。

3日目、沖縄県中部に位置する読谷村(よみたんそん)での平和学習が行われました。その学びの一つに「チビチリガマ」という自然の洞窟を利用した防空壕を訪れる機会がありました。今から77年前、太平洋戦争下、沖縄は日本で唯一の地上戦が行われました。沖縄の人々は、上陸してきたアメリカ兵から逃げ惑い、命を守るために多くのガマ(洞窟の壕のこと)

に身を寄せ、潜めました。このチビチリガマには百数十名の読谷村の人々がいたそうです。アメリカ兵は「出てきなさい」と投降を要求します。しかし、その呼びかけには易々と応じる訳にはいきません。アメリカ兵に殺されると信じていたからです。やがて日が経ち、食料も尽き、行き場を失った人々は、アメリカ兵に殺されるぐらいならという思いから、82名の読谷村民が集団自決を敢行したという場所です。

この実相を遺族の方々に組織する遺族会の方から説明をしていただきました。その時の生徒の聞く態度が実に素晴らしかった。聞き逃すまいという姿勢は実に見事でした。その方が「こんなに聞いてくださった学校は初めてです」とお褒めの言葉をいただきました。

### 自然の偉大さと達成感を味わう

鹿児島・屋久島コースの生徒は、とくに屋久島での体験から多くのことを学んだようです。悪天候の中を10時間歩くという「縄文杉」トレッキングなどがありました。研修旅行後、生徒に感想を聞いてみました。

「トレッキングを通して仲間と協力することの大切さを感じ、日常生活でも協力が肝心だと思いました」「精神的追い詰められたけど、それくらい体験してみないと分からないものがあると思いました」「ここまでしんどい経験はなかったので、これからいろいろなことに立ち向かって、強くなれそうな気がしました」。

チャレンジが生んだ素晴らしい成果の何ものでもありません。この経験は、大いなる自信と成長となり、一生の宝となったに違いありません。よかったねえ。

手話同好会のチャレンジと献身的姿勢、読谷村での生徒の学びの様子、屋久島での果敢なチャレンジ、実に素晴らしいです。こうした生徒のチャレンジと成長の姿は、我々の誇りでもあるのです。